

ノーベル賞と若人への期待

市川 浩

本年のノーベル賞は本庶佑先生醫學賞に輝く。受賞理由のニヴォルマブ（商品名オプジーボ）は有害のウイルスや細胞を攻撃すべき免疫細胞が癌細胞に對してはその作用が抑止的に弱體化する現象に著目し、通常通りの對異物攻撃力を維持せしむる藥劑として開發せられ、その戰略の素晴しさはその後の高藥價と共に夙に名高し。日本に於ける製造販賣の承認は平成二十六年にして、同先生は昭和十七年生まれ、即ち七十二歳にて大成果を挙げらる。當に理想的研究人生を歩まれりけりと申すべし。

然れど平成三年の泡沫^{バブル}經濟崩壞後、各種の經濟的或は學術的指標等に於て我が國の世界に於ける退潮著しきも亦事實にして、最も影響の後るゝ基礎研究の成果にも近々減速低迷の兆出でつらむとの憂慮表明する人も多し。或る人の言へらく、以前好況時には、生産は即ち販賣なれば、企業は生産に全力を挙げ、研究開發、特に基礎研究に振り向くるに豫算的餘力ありと雖も人的資源なし。又不況時には人的には餘裕あるものゝ研究費は逼迫す。一方泡沫經濟崩壞後は好、不況の差必ずしも鮮明ならず、企業も亦不況下には研究開發より寧ろ扶養手當等に手を著くるなど、研究環境は嚴しさを増してけりと。加へて若年層に終身雇傭を望まぬ風もあり、生涯を研究に捧ぐる意氣込みも薄れむに非ずやと思はするあり。

一方若人の活躍目覺しきこと、本稿執筆中にも二十二歳の大阪なおみ選手の活躍を聞く。昨年の世界庭球「四大大會」全米オープン優勝に續き、今回同全豪オープンにも優勝す。その他冰上^{フィギュアスケート}圖形滑走に於ける十六歲高校二年生の紀平梨花選手の如き、初出場にて世界一の最高賞^{グランプリ}を獲得するを始めとして、各種目にて世界記録を更新するも多く、今後の一年間に如何なる俊秀の選手現はれ出でむや想像に難し。

來年開催の五輪東京大會は主催者たる都知事が三人も交替し、夫々異なる考へ方に振回され、前途の多難を憂へしむ。施設の新改築は幸ひ著々と進む中、大會運営の細部にては準備未だ初期段階に見ゆ。但し其中にも嬉しき困難は出場選手の銓衡にして、なほ豫斷を許さぬは、多數無名の若手擡頭によるべし。これらの選手出現の經緯を見るに、先づ團體競技の分野にては、義務教育中體育の課外活動を通じ、指導教諭の熱意によるもの多し。一方個人技の種目にては、両親など親族又は専門の指導員^{コーチ}による個人別育成主流なり。而してこの團體、個人二種の競技には、一般的傾向として、前者には多く明確なる得點域ありて、選手は只管これを目指し、後者には卓越せる表現求めらるゝありて、夫々育成の方向異なるあり。

我が國にては、古來個人技の習練を重んじ、世阿彌の風姿花傳を以て其集大成とす。維新後目標に向ひ一致團結するの要に目覺め、學校、軍隊、工場更には官廳、企業等すべてに團體競技的指導滲透す。最近に至り、個人技的指導の重要性屢々指摘あり、なほ部分的に留れるが如きも、冒頭の如き若人の擡頭を見る。

この趨勢、江戸時代我が國の藩校、寺子屋の再來を見る。特に寺子屋の先生は近在の子供らを克く觀察して、その適性を伸ばすに力ありたりといふ。維新政府は歐米の科學思想による全國民一律の教育を目指し、學制を發布す。然れどもその成功の一部は寺子屋の残り火によるものに非ずや。世界一極化からの解放と多様性尊重の二十一世紀、教育基
本法もこの趣旨に添ふ改正濟なり。新し
き人材の育成の進まむを願ふや切なり。

（平成三十一年一月二十七日受附）